

▲ボランティア国際年の今年秋、中国山地の山あいにある岡山県哲多町に「国際貢献大学校」がオープンする。その校長に内定した。6月をめどに社会人を対象に募集。1〜3年の間、保健・医療を学んでもらい、海外実習も重ね、



人道援助の専門家を養成する。子どもたちにも、国際理解や平和学習の講座を開く。

◆過疎の町ですが、ミヤンマーとの交流を続け、国際貢献の視点もしっかりしている。廃校となる小学校

の用地を大学校として活用することが町議会で決まり、AMD A (アジア医師連絡協議会) グループの

ムタ国際福祉事業団が運営を委託された。自治体とNGO (非政府組織) が人材養成で結びつくのは、まれ

なこと。大学校を舞台に内外の交流が新たに生まれる

多文化が渦巻くアジアにひかれ、アジアにこだわる。折感が、AMD A 結成 (84

◆高校時代、第二次世界年) に結びついて……。

情をよく知った現地のメンバーを中心とするチームを組む。この多様性が、受け入れられる大きな要素。違いが財産。なんですね。

多様なアジアに共通する

大きな思想より小さな心

生活助け、希望を支援

AMD A 代表
がなみ しげる
菅波 茂さん

ボランティア国際年

大戦中にアジアの戦線で倒れた日本兵の写真を見てショックを受けた。「この若者がなぜ、ここで死んだのか」。岡山大医学部に入学者、尺八一本をコミュニケーションの道具として携え、アジアを放浪した。医師になって2年。1979年にカンボジアで大量の難民が生まれ、タイの難民キャンプに飛んだ。でも、ノウハウも組織もなく、欧米

族も宗教もさまざま、実

の、困ったときはお互いさま」という相互扶助の気持ち。20世紀はイデオロギー優先で破たんしたと思えます。大きな思想より、私たちが実践してきた小さな心と心の結びつきこそ、新しい世紀にますます重要度を増してくるはず。◆理想を大事にしな

◆被害を受けた人々とその家族の「今日の生活」を助け、「明日の希望」が持てるようにするのが人道援助。それが食糧援助であり、医療援助。そして教育への支援。これらが

実現できる状態が平和でしょう。逆に、平和を阻害するものが、戦争、災害、貧困。必要とされず、関心も持たれず、忘れ去られることが人を絶望に追い込む。お互いに「違い」を理解し合うで、対等な関係で尊敬し合い、信頼し合う。相手が必要とし、関心を持ち続け、忘れもしない。そんなパートナーシップを、地球上に張りめぐらせることができれば、平和はきっと見えてくる。若い人たちが、語り合いたいことですね。

定



AMD A 高校生会のメンバーらと話し合う菅波茂さん(左)

岡山市梅津のAMD A 本

次回は、本日から本紙朝刊に連載電話「ゆきねこちゃん」を執筆している童話作家、今江祥智さん7日の予定